

福山市人事行政の運営等の状況

2018年（平成30年）11月

目次

1	職員の任免及び職員数に関する状況	
(1)	職員の採用状況	1
(2)	職員の退職等の状況	1
(3)	職員採用候補者試験の状況	2
(4)	部門別職員数の状況と主な増減理由	3
(5)	定員適正化計画の数値目標及び進捗状況	4
2	職員の人事評価の状況	
(1)	目的	5
(2)	人事評価の内容	5
(3)	人事評価の結果の活用	5
3	職員の給与の状況	
(1)	人件費の状況（普通会計決算）	6
(2)	職員給与費の状況（普通会計決算）	6
(3)	職員の経験年数別・学歴別平均給料月額及び平均年齢の状況	6
(4)	ラスパイレス指数の推移（一般行政職）	6
(5)	職員の初任給の状況	7
(6)	一般行政職の級別職員数の状況	7
(7)	職員手当の状況	7
(8)	特別職の報酬等の状況	9
4	職員の勤務時間その他の勤務条件の状況	
(1)	職員の勤務時間	10
(2)	年次有給休暇の取得状況	10
(3)	時間外勤務及び休日勤務等の状況	10
(4)	休暇等の状況	10
5	職員の休業に関する状況	11
6	職員の分限及び懲戒処分の状況	
(1)	分限処分者数	12
(2)	懲戒処分者数	12
7	職員のサービスの状況	
(1)	公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律に基づく派遣の状況	13
(2)	営利企業等の従事許可の状況	13
8	職員の退職管理の状況	13
9	職員の研修の状況	
(1)	研修に関する基本方針の策定	13
(2)	研修の実施状況	13
10	職員の福祉及び利益の保護の状況	
(1)	職員の福利厚生制度	14
(2)	職員の健康診断等の状況	14
(3)	公務災害の発生状況	14
(4)	職員の利益の保護の状況	14
11	公平委員会の業務の状況	
(1)	勤務条件に関する措置の要求の状況	15
(2)	不利益処分に関する審査請求の状況	15
12	職務の級及び職制上の段階ごとの職員数	
(1)	一般職給料表	16
(2)	教育職給料表（一）	18
(3)	教育職給料表（二）	18
(4)	医療職給料表	18
(5)	看護職給料表	18
(6)	特定任期付職員給料表	19

地方公務員法（昭和25年法律第261号）第58条の2及び福山市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例（平成17年条例第4号）の規定に基づき、本市の人事行政の運営等の状況について公表します。併せて、地方公務員法第58条の3の規定に基づき、本市の職務の級及び職制上の段階ごとの職員数について公表します。

2018年（平成30年）11月30日

福山市長 枝 廣 直 幹

1 職員の任免及び職員数に関する状況

(1) 職員の採用状況（2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日） (単位：人)

区 分	採用職員数	性別	
		男	女
市長の事務部局	114	52	62
試験採用	97	39	58
選考採用(注)	17	13	4
教育委員会の事務部局	26	12	14
試験採用	15	2	13
選考採用(注)	11	10	1
上下水道事業管理者の事務部局	7	6	1
試験採用	7	6	1
病院事業管理者の事務部局	85	30	55
試験採用	66	17	49
選考採用(注)	19	13	6
合 計	232	100	132

(注) 選考採用：医師，福山市立大学教員，福山市立高等学校教諭等の職種があります。

(2) 職員の退職等の状況 (単位：人)

区 分	2017年度 (平成29年度)	2016年度 (平成28年度)
定年退職	73	139
早期退職	23	28
普通退職	84	101
分限免職	0	0
懲戒免職	1	0
失 職	0	0
死亡退職	7	3
合 計	188	271

- (注) 1 定年退職：地方公務員法(以下「地公法」という。)第28条の2第1項の規定により退職すること。
 2 早期退職：任命権者が年齢別構成の適正化を図る目的から定年前退職の募集を行い、これに応じて退職すること。
 3 普通退職：自己都合により退職すること。(派遣等による退職を含む。)
 4 失職：職員が法定の欠格条項(地公法第16条各号(第3号を除く。))に該当する場合で行政処分によることなく当然に離職するもの)に該当し離職すること。

(3) 職員採用候補者試験の状況 (2017年度(平成29年度)実施)

職 種	受験者数 (A) (人)	採用者数 (B) (人)	競争倍率 (A) / (B) (倍)
事務職 (1種)	376	33	11.4
事務職 (2種)	43	5	8.6
障がいのある人を対象とした事務職	11	3	3.7
技術職 (1種・土木)	19	7	2.7
技術職 (2種・土木)	0	-	-
技術職 (1種・建築)	9	6	1.5
技術職 (1種・機械)	9	2	4.5
保育士・幼稚園教諭	79	20	4.0
保健師	24	5	4.8
現業関係職員 (調理・給食業務等)	61	16	3.8
現業関係職員 (清掃・学校技術業務等)	16	2	8.0
事務職 (職務経験者／情報処理技術)	10	1	10.0
技術職 (職務経験者／土木)	1	0	-
技術職 (職務経験者／建築)	0	-	-
弁護士 (任期付)	2	1	2.0
診療情報管理事務	4	1	4.0
メディカルソーシャルワーカー	13	1	13.0
臨床検査技師	10	1	10.0
理学療法士	19	2	9.5
作業療法士	1	1	1.0
助産師	5	3	1.7
看護師	91	47	1.9
学芸員	14	1	14.0
技術職 (職務経験者／文化財建造物)	2	1	2.0
合 計	819	159	5.2

(4) 部門別職員数の状況と主な増減理由 (各年4月1日現在)

(単位：人)

部門		区分	職 員 数		対前年度 増 減 数	主 な 増 減 理 由
			2017年 (平成29年)	2016年 (平成28年)		
普 通 会 計	福 祉 関 係 を 除 く 一 般 行 政	議 会	18	18	0	
		総 務	489	490	▲ 1	・市制施行100周年事業終了
		税 務	166	169	▲ 3	・業務見直し
		労 働	0	0	0	
		農林水産	90	91	▲ 1	・業務見直し
		商 工	44	45	▲ 1	・業務見直し
		土 木	346	338	8	・福山駅前再生事業の体制充実 ・総合体育館建設に伴う業務増
		小 計	1,153	1,151	2	
	福 祉 関 係	民 生	767	783	▲ 16	・保育所再整備計画推進による法人移管
		衛 生	335	337	▲ 2	・し尿処理事業の業務委託
		小 計	1,102	1,120	▲ 18	
一般行政部門計		2,255	2,271	▲ 16		
教 育		538	544	▲ 6	・業務見直し	
普通会計計		2,793	2,815	▲ 22		
公 営 企 業 等 会 計 部 門	病 院		881	864	17	・病院体制充実
	水 道		117	118	▲ 1	・浄水場業務の一部業務委託
	下 水 道		82	84	▲ 2	・汚水整備計画見直し
	そ の 他		212	211	1	・工業用水道第二期改築事業に伴う業務増
	公営企業等会計部門計		1,292	1,277	15	
総 合 計		4,085	4,092	▲ 7		

(注) 職員数は一般職に属する職員の数であり、地方公務員の身分を保有する休職者、派遣職員等を含み、臨時及び非常勤職員を除いています。

(5) 定員適正化計画の数値目標及び進捗状況

ア 定員適正化の概要

定員の適正化については、これまで「福山市行財政改革大綱」に基づき、1998年度（平成10年度）からの8年間の取組の中で449人を削減し、続いて、「福山市中長期定員適正化計画」において、2006年度（平成18年度）からの10年間で約440人の職員数削減の目標に対し、職員550人を削減したところです。

2016年（平成28年）2月には、新たに「福山市定員適正化計画2016」を策定しました。2016年度（平成28年度）から2020年度（平成32年度）までの5年間の計画期間とし、2015年（平成27年）4月1日の人口10,000人当たりの職員数（市民病院を除く。）69.1人を基準として、これを上回らない職員数を基本に定員適正化に取り組むものとしています。適正化に当たっては、2015年（平成27年）4月1日現在の職員数（市民病院を除く。）3,263人を基準とし、5年間で約3パーセント（約100人）の職員数削減を目標としています。2018年（平成30年）4月1日現在では、69人の職員数の削減を行ったところです。引き続き、必要な部署には必要な人員配置を行う中で、効率的な行政執行体制の構築に努め、定員適正化の取組を進めていきます。

イ 定員適正化目標

福山市定員適正化計画2016
(2016年(平成28年)2月策定)

(単位：人，%)

	目標値（市民病院以外）	減員数	削減率
2015年度 (平成27年度)	3,263	-	-
2020年度 (平成32年度)	3,158	▲ 105	▲ 3.2

【年次目標】

(単位：人，%)

区分	総職員数			目標値（市民病院以外）			市民病院		
	総職員数	対前年数	増減率	職員数	対前年数	増減率	職員数	対前年数	増減率
2015年度 (平成27年度)	4,100	-	-	3,263	-	-	837	-	-
2016年度 (平成28年度)	4,108	8	0.2	3,233	▲ 30	▲ 0.9	875	38	4.5
2017年度 (平成29年度)	4,103	▲ 5	▲ 0.1	3,213	▲ 20	▲ 0.6	890	15	1.7
2018年度 (平成30年度)	4,098	▲ 5	▲ 0.1	3,193	▲ 20	▲ 0.6	905	15	1.7
2019年度 (平成31年度)	4,093	▲ 5	▲ 0.1	3,173	▲ 20	▲ 0.6	920	15	1.7
2020年度 (平成32年度)	4,093	0	0.0	3,158	▲ 15	▲ 0.5	935	15	1.6
目標値	4,093	▲ 7	▲ 0.2	3,158	▲ 105	▲ 3.2	935	98	11.7

【年次別実績】

(単位：人，%)

区分	総職員数			市民病院以外				市民病院			
	総職員数	対前年数	増減率	職員数	対前年数	増減率	累計減員数	累計削減率	職員数	対前年数	増減率
2015年度 (平成27年度)	4,100	-	-	3,263	-	-	-	-	837	-	-
2016年度 (平成28年度)	4,096	▲ 4	▲ 0.1	3,232	▲ 31	▲ 1.0	▲ 31	▲ 1.0	864	27	3.2
2017年度 (平成29年度)	4,090	▲ 6	▲ 0.1	3,209	▲ 23	▲ 0.7	▲ 54	▲ 1.7	881	17	2.0
2018年度 (平成30年度)	4,082	▲ 8	▲ 0.2	3,194	▲ 15	▲ 0.5	▲ 69	▲ 2.1	888	7	0.8
2019年度 (平成31年度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2020年度 (平成32年度)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2 職員の人事評価の状況

(1) 目的

人事評価制度は、人材育成基本方針のもと、職位における役割を明示し、人事管理、職員研修などの諸制度と連携しながら、個人としての成長を高め、組織のビジョンやミッションの達成による組織力の向上を目的として行っています。

(2) 人事評価の内容

ア 評価期間

4月1日から翌年3月31日まで

イ 対象者

全職員

ウ 評価方法

能力評価及び業績評価により評価を実施しています。

(3) 人事評価の結果の活用

人事評価の結果は、任用、給与、分限その他の人事管理の基礎として活用しています。

3 職員の給与の状況

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区 分	住民基本台帳人口 (2017年度(平成29 年度)末現在)	歳出額 (A)	実質収支	人件費 (B)	人件費率 (B/A)	2016年度 (平成28年 度) 人件費率
2017年度 (平成29年度)	468,987人	164,878,036千円	3,780,956千円	24,641,769千円	14.9%	15.7%

(2) 職員給与費（事業費支弁職員を含む）の状況（普通会計決算）

区 分	職員数	給 与 費				1人当たり 給 与 費
		給 料	職員手当	期末勤勉手当	計	
2017年度 (平成29年度)	2,793人	10,422,926千円	1,615,457千円	4,129,388千円	16,167,771千円	5,789千円

(注) 1 職員手当には退職手当を含みません。

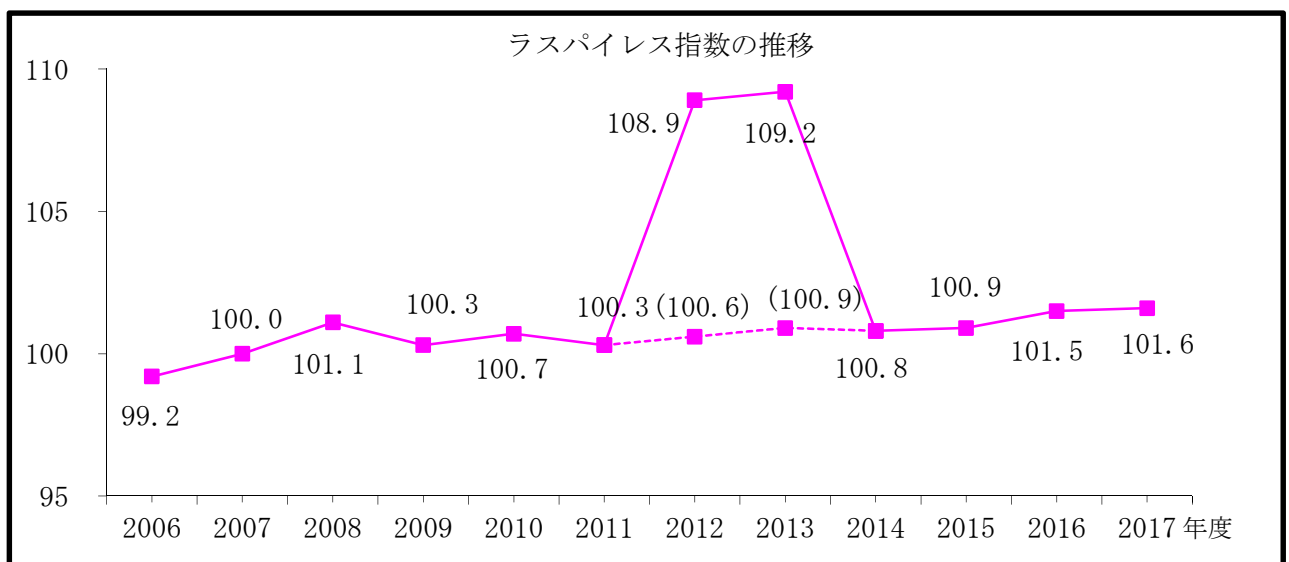
2 職員数は2017年（平成29年）4月1日現在の人数です。

(3) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額及び平均年齢の状況（2017年（平成29年）4月1日現在）

区 分		10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	全 職 員	
					平均給料月額	平均年齢
一般行政職	大学卒	278,000円	329,800円	379,200円	305,000円	38.5歳
	高校卒	232,600円	280,300円	353,700円	320,900円	41.5歳

(注) 「平均給料月額及び平均年齢」とは、職員に係る給料月額の総額及び年齢の総和を、それぞれ当該職員数で除して得た額及び年齢であり、必ずしも、平均年齢に該当する職員が受ける給料月額が平均給料月額と一致するものではありません。

(4) ラスパイレス指数の推移（一般行政職）



(注) 1 ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数です。

2 2012年度（平成24年度）及び2013年度（平成25年度）の（ ）内は、国家公務員の給与減額支給措置がなかった場合における指数です。

(5) 職員の初任給の状況 (2017年 (平成29年) 4月1日現在)

区 分		福山市	国
一般行政職	大学卒	185,800円	179,200円
	短大卒	165,700円	159,800円
	高校卒	151,500円	147,100円

(6) 一般行政職の級別職員数の状況 (2017年 (平成29年) 4月1日現在)

区 分	基 準 と な る 職 務 内 容	職員数	構成比
1 級	職員の職務	275 人	16.9%
2 級	上級職員の職務	325 人	19.9%
3 級	主任職員の職務	230 人	14.1%
4 級	主査の職務	235 人	14.4%
5 級	担当次長・次長又は調整員の職務	331 人	20.3%
6 級	課長補佐又は専門員の職務	59 人	3.6%
7 級	課長・主幹又は委員会等の事務局の長の職務	135 人	8.3%
8 級	部長・参与又は議会事務局の長の職務	34 人	2.1%
9 級	局長・参事又は教育次長の職務	6 人	0.4%

(注) 1 「福山市一般職員の給与に関する条例」に基づく給料表の級区分による職員数です。

2 基準となる職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。

(7) 職員手当の状況

名 称	福 山 市		国	
期末手当	<2017年度 (平成29年度) の支給割合>		<2017年度 (平成29年度) の支給割合>	
		期末手当		期末手当
6月期	1.175月分	0.850月分	1.225月分	0.850月分
	(0.55)月分	(0.400)月分	(0.65)月分	(0.400)月分
12月期	1.175月分	0.950月分	1.375月分	0.950月分
	(0.80)月分	(0.450)月分	(0.80)月分	(0.450)月分
3月期	0.25月分	—	—	—
	(0.10)月分	—	—	—
計	2.60月分	1.80月分	2.60月分	1.80月分
	(1.45)月分	(0.85)月分	(1.45)月分	(0.85)月分
	職制上の段階、職務の級等による加算措置		職制上の段階、職務の級等による加算措置	
	・職務の級による加算 5%~20%		・役職加算 5%~20%	
			・管理職加算 10%~25%	

(注) () 内は、再任用職員に係る支給割合です。

名 称	福 山 市	国
退職手当	〈2017年（平成29年）4月1日現在の支給率〉	
	自己都合	早期・定年
	勤続20年	20.445月分 25.55625月分
	勤続25年	29.145月分 34.5825月分
	勤続35年	41.325月分 49.59月分
	最高限度	49.59月分 49.59月分
	1人当たり平均支給額 2017年度（平成29年度）実績	18,065千円

名 称	内 容			
地域手当	支給対象職員	東京都特別区 在勤の職員	広 島 市 在勤の職員	医療職給料表 の適用職員
	支給率	20%	10%	16%
	支給対象職員数 (2017年（平成29年）4月1日現在)	7人	5人	3人
	国の制度（支給率）	20%	10%	16%
	支給対象職員1人当たり平均支給年額 (2017年（平成29年）4月1日現在)	863,295円	336,744円	1,220,288円

名 称	区 分	全 職 種
特殊勤務 手 当	支給総額（2017年度（平成29年度）実績）	25,556千円
	職員1人当たり平均支給年額	8,186円
	職員全体に占める手当支給職員の割合 (2017年（平成29年）4月実績)	8.7%
	手当の種類（手当数） (2017年（平成29年）4月1日現在)	16種類
	代表的な手当の名称	市税等の徴収に従事する職員の手当 生活保護の業務に従事する職員の手当

名 称	区 分		全 職 種
時間外勤務 手 当	2017年度 (平成29年度)	支給総額	750,337千円
		職員1人当たり平均支給年額	240,416円
	2016年度 (平成28年度)	支給総額	786,889千円
		職員1人当たり平均支給年額	250,601円

(注) 休日勤務手当及び夜間勤務手当を含んだ金額です。

名 称	内 容	
扶養手当	・扶養親族である配偶者	10,000円
	・扶養親族である子	8,000円
	・配偶者のいない扶養親族の1人目（子）	10,000円
	・配偶者のいない扶養親族の1人目（父母等）	9,000円
	・上記以外の扶養親族	6,500円
	・扶養親族のうち16歳から22歳までの子（1人当たり加算額）	5,500円
住居手当	・借家等を借受け、12,000円を超える家賃を支払っている職員（限度額）	27,000円
通勤手当	・交通機関利用者	最長6月間の定期券等の価格に相当する額
	・自動車等の交通用具利用者（2キロ以上で距離に応じて）	4,000円～31,600円

（8）特別職の報酬等の状況（2017年（平成29年）4月1日現在）

名 称	区 分	金 額 等
給 料	市長	1,120,000円
	副市長	930,000円
	教育長	815,000円
	常勤の監査委員	785,000円
報 酬	議長	765,000円
	副議長	685,000円
	議員	635,000円
期末手当 （特別職 ・議員）	6月期	2.025月分
	12月期	2.125月分
	3月期	0.25月分
	計	4.40月分

（注）期末手当は、2017年度（平成29年度）の支給割合です。

4 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

(1) 職員の勤務時間（一般職の標準的なもの 2017年(平成29年)4月1日現在）

1週間の勤務時間	始業時刻	終業時刻	休憩時間	備考
38時間45分	8:30	17:15	12:00～13:00	

(注) 休憩時間とは、職員が勤務時間の途中において、勤務から解放され、自己の時間として自由に利用することが保障されている時間であり、労働基準法に準拠しているもの。

(2) 年次有給休暇の取得状況（2017年(平成29年)1月1日～2017年(平成29年)12月31日）

総付与日数 A	総取得日数 B	全対象職員数 C	平均取得日数 B/C	取得率 B/A
65,971.1日	12,909.7日	1,700人	7.6日	19.6%

(注) 「全対象職員数」とは、2017年(平成29年)1月1日から同年12月31日までの全期間を在職した一般職員（非現業の一般職に属する職員のうち、市長部局に勤務する職員）で、当該期間の中途に採用された者及び退職した者並びに当該期間中に育児休業、退職の事由がある職員並びに派遣職員を除くもの。

(3) 時間外勤務及び休日勤務等の状況

(2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日) (単位：時間)

時間外・休日勤務総時間数	職員一人当たりの 時間外・休日勤務平均時間数
465,673	15.9

(注) 1 「時間外・休日勤務総時間数」は、当該年度中の時間外勤務等の総時間数。

2 「職員一人当たりの時間外・休日勤務平均時間数」は、「時間外・休日勤務総時間数」を実支給総人員数（支給対象人員数のうち、当該年度中において実際に手当を支給した延べ人数）で除したもの。

※ 延べ人数は、各月の実支給人員数を積み上げたもの。

(4) 休暇等の状況（2017年(平成29年)4月1日現在）

休暇の種類	事由	付与日数・期間等
年次休暇	一の年（暦年）ごとにおける休暇	毎年1月1日からその年の12月31日までの間において20日以内
病気休暇	公務又は通勤によらない負傷又は疾病	結核性疾患にあつては1年、その他の負傷又は疾病にあつては125日（週休日、休日を含む）を超えない期間内において最小限度必要と認める日数又は時間
特別休暇 (主なもの)	忌引	規則に定める期間内において必要と認める日数又は時間
	女子職員が出産した場合	産前8週間（多胎妊娠の場合にあつては、14週間）、産後8週間
	配偶者又は子（子の配偶者を含む。）の出産の場合	3日を超えない範囲内で必要と認める日数又は時間

(注) 上記以外に介護休暇、育児休業制度等があります。

5 職員の休業に関する状況

(2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日) (単位：人)

種類	取得者数		計
	男	女	
育児休業	4	115	119
	1	170	171
部分休業	1	73	74
	1	101	102
自己啓発等休業	0	1	1
	0	0	0
配偶者同行休業	0	0	0
	0	0	0
修学部分休業	0	0	0
	0	0	0
高齢者部分休業	1	0	1
	0	0	0

(注) 1 上段は当該年度において、新たに取得した職員数，下段は前年度から引き続き取得している職員数。

2 育児休業：子を養育するため、当該子が3歳に達する日まで休業すること。

3 部分休業：小学校就学の始期に達するまでの子を養育するため、勤務時間の一部を休業すること。

4 自己啓発等休業：大学等課程の履修，国際貢献活動の参加のため休業すること。

5 配偶者同行休業：外国で勤務等をする配偶者がいる職員が，配偶者と生活を共にするため休業すること。

6 修学部分休業：職員が大学，教育施設における修学のため，勤務時間の一部を休業すること。

7 高齢者部分休業：55歳に達した職員が，1週間の勤務時間の一部を休業すること。

6 職員の分限及び懲戒処分状況

(1) 分限処分者数 (2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日) (単位：人)

区 分		降任	免職	休職	降給	合計
勤務実績が良くない場合	地公法第28条 第1項第1号	0	0			0
心身の故障の場合	地公法第28条 第1項第2号 第2項第1号	0	0	56		56
職に必要な適格性を欠く場合	地公法第28条 第1項第3号	0	0			0
職制、定数の改廃、予算の減少により 廃職、過員を生じた場合	地公法第28条 第1項第4号	0	0			0
刑事事件に関し起訴された場合	地公法第28条 第2項第2号			0		0
条例で定める事由による場合	地公法第27条 第2項			0	0	0
合 計		0	0	56	0	56

(2) 懲戒処分者数 (2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日) (単位：人)

区 分		戒告	減給	停職	免職	合計
法令に違反した場合	地公法第29条 第1項第1号	0	0	0	0	0
職務上の義務に違反し、又は職務 を怠った場合	地公法第29条 第1項第2号	0	0	0	0	0
全体の奉仕者たるにふさわしくない 非行のあった場合	地公法第29条 第1項第3号	0	0	1	1	2
合 計		0	0	1	1	2

7 職員のサービスの状況

- (1) 公益的法人等への一般職の地方公務員の派遣等に関する法律に基づく派遣の状況
(2017年(平成29年)4月1日現在) (単位:人)

派遣先	派遣者数
-	-

- (2) 営利企業等の従事許可の状況 (地公法第38条関係)
(2017年(平成29年)4月1日～2018年(平成30年)3月31日)

区 分	件 数	備 考
許 可	31	

- (注) 営利企業等の従事とは、営利企業その他の団体の役員等へ就任し従事すること、自ら営利を目的とする企業を営むこと等をいいます。

8 職員の退職管理の状況

2017年度(平成29年度)に管理職であった者の再就職の状況 (単位:人)

再任用職員	本市関係公益的法人等	国・他自治体	その他民間企業等
17	2	0	10

9 職員の研修の状況

- (1) 研修に関する基本方針の策定
(地公法第39条第3項)

策定の有無	策定期期
有	1999年(平成11年)3月

- (2) 研修の実施状況 (単位:人)

機関別研修	2017年度(平成29年度) 参加者数	2016年度(平成28年度) 参加者数	備 考
福山市独自の研修	3,602	3,104	
ひろしま自治人材開発機構	626	640	
その他の実施機関への派遣研修	1,361	1,342	

- (注) 参加者数は延べ人数。各職場で個別の研修も実施しています。

10 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 職員の福利厚生制度

地方公共団体は、職員の保健、元気回復その他厚生に関する事項について計画を樹立し、実施しなければなりません（地公法第42条）。

また、共済制度は、職員やその被扶養者の病気、負傷、出産、休業、災害、退職、障害又は死亡に関して、適切な給付を行うための相互救済を目的とするもので（地公法第43条第1項）、具体的には、広島県市町村職員共済組合が制度を運用し、病気等の治療時の保健給付や、退職後の生活を支援するための年金の支給などを行っています。

この他に職員は、スポーツ施設や文化施設の利用助成や各種スポーツ大会の開催等を行う広島県市町村職員共済互助会に3,937人が、職員の慶弔等に係る給付事業等を行う福山市職員互助会に4,775人が（いずれも2017年4月1日時点）加入しています。

(2) 職員の健康診断等の状況（2017年度（平成29年度）実績）

健康診断の内容	受診者数
定期健康診断	4,041人
特別健康診断	837人
B型肝炎予防検査	208人
短期人間ドック	2,979人
生活習慣病予防検診	81人
VDT検診	865人
その他	593人

(3) 公務災害の発生状況

区分	公務災害	通勤災害
2017年度（平成29年度）	70件	24件
2016年度（平成28年度）	76件	27件

(4) 職員の利益の保護の状況

職員の生活及び身分の安定を通じて公務能率の向上を図ることを目的として、経済的利益と身分上の利益を保護するために、職員は公平委員会に対して、勤務条件に関する措置要求及び不利益処分に関する審査請求を行うことができることとしています。

1.1 公平委員会の業務の状況

(1) 勤務条件に関する措置の要求の状況

区 分	2017 (H29) . 3. 31現在 継続件数 (A)	2017 (H29) . 4. 1～ 2018 (H30) . 3. 31 の措置の要求の件数 (B)	2017 (H29) . 4. 1～ 2018 (H30) . 3. 31 の終結件数 (C)	2018 (H30) . 3. 31現在 継続件数 (A+B-C)
給 与	0	0	0	0
旅 費	0	0	0	0
勤務時間	0	0	0	0
休 暇	0	0	0	0
執務環境	0	0	0	0
厚生福利	0	0	0	0
転 任	0	0	0	0
任 用	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

(2) 不利益処分に関する審査請求の状況

区 分	2017 (H29) . 3. 31現在 継続件数 (A)	2017 (H29) . 4. 1～ 2018 (H30) . 3. 31 の審査請求の件数 (B)	2017 (H29) . 4. 1～ 2018 (H30) . 3. 31 の終結件数 (C)	2018 (H30) . 3. 31現在 継続件数 (A+B-C)
分限処分	0	0	0	0
降給	0	0	0	0
降任	0	0	0	0
休職	0	0	0	0
免職	0	0	0	0
懲戒処分	0	0	0	0
戒告	0	0	0	0
減給	0	0	0	0
停職	0	0	0	0
免職	0	0	0	0
転 任	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

1.2 職務の級及び職制上の段階ごとの職員数 (2018年(平成30年)4月1日現在)

(1) 一般職給料表

職務の級	基準となる職務	合計		内訳		職制上の段階		
		(人)	(%)	職名	(人)	(人)	(%)	段階
1級	職員の職務	450	18.1	主事	256	894	36.0	係員級
				技師	48			
				保育士	98			
				保育教諭	5			
				教諭	7			
				司書	5			
				薬剤師	1			
				栄養士	4			
				保健師	23			
				学芸員	1			
				作業療法士	1			
				言語聴覚士	1			
				2級	上級職員の職務			
技師	61							
保育士	49							
保育教諭	4							
教諭	9							
司書	10							
獣医師	3							
薬剤師	3							
栄養士	6							
保健師	19							
作業療法士	1							
3級	主任職員の職務	480	19.3	主任職員	480	480	19.3	主任級
4級	主査の職務	393	15.8	主査	392	393	15.8	係長級
				副所長	1			
5級	担当次長，次長又は調整員の職務	403	16.2	次長	276	526	21.2	課長補佐級
				調整員	86			
				所長	5			
				副所長	19			
				館長	6			
				副園長	11			
6級	課長補佐又は専門員の職務	123	5.0	課長補佐	47			
				専門員	18			
				所長	48			
				副園長	1			
				所長補佐	7			
				館長補佐	2			

職務 の級	基準となる職務	合計		内訳		職制上の段階		
		(人)	(%)	職名	(人)	(人)	(%)	段階
7級	課長, 主幹又は 委員会等の 事務局の長の職務	144	5.8	課長	118	144	5.8	課長級
				主幹	5			
				室長	2			
				所長	7			
				副所長	1			
				支所長	6			
				館長	1			
				事務長	1			
				事務局長	3			
8級	部長, 参与又は 議事事務局の長の 職務	38	1.5	部長	26	38	1.5	部長級
				参与	4			
				支所長	3			
				事務局長	2			
				会計管理者	1			
				局長	1			
				参事	1			
9級	局長, 参事又は 教育次長の職務	6	0.2	局長	5	6	0.2	局長級
				教育次長	1			
合計		2,481	100.0					

(注) 1 人数には常勤の再任用職員を含む。

2 端数処理の関係上, 構成比の合計が100%に満たない場合がある。

(2) 教育職給料表 (一)

職務の級	基準となる職務	合計		内訳		職制上の段階		
		(人)	(%)	職名	(人)	(人)	(%)	段階
1級	福山市立大学の助教又は助手の職務	0	0.0		0	0	0.0	助教級又は助手級
2級	福山市立大学の講師の職務	10	18.9	講師	10	10	18.9	講師級
3級	福山市立大学の准教授の職務	20	37.7	准教授	20	20	37.7	准教授級
4級	福山市立大学の教授の職務	23	43.4	教授	23	23	43.4	教授級
合計		53	100.0					

(注) 端数処理の関係上、構成比の合計が100%に満たない場合がある。

(3) 教育職給料表 (二)

職務の級	基準となる職務	合計		内訳		職制上の段階		
		(人)	(%)	職名	(人)	(人)	(%)	段階
1級	高等学校の助教諭、講師又は実習助手の職務	0	0.0		0			
2級	高等学校の教諭の職務	38	95.0	教諭	36	38	95.0	教諭級
				教諭兼実習教員	1			
				養護教諭	1			
特2級	高等学校の主幹教諭又は指導教諭の職務	0	0.0		0	0	0.0	主幹教諭級
3級	高等学校の教頭の職務	1	2.5	教頭	1	1	2.5	教頭級
4級	高等学校の校長の職務	1	2.5	校長	1	1	2.5	校長級
合計		40	100.0					

(注) 1 人数には常勤の再任用職員を含む。

2 端数処理の関係上、構成比の合計が100%に満たない場合がある。

(4) 医療職給料表

職務の級	基準となる職務	合計		内訳		職制上の段階		
		(人)	(%)	職名	(人)	(人)	(%)	段階
1級	医師の職務	0	0.0		0	0	0.0	係員級
2級	担当次長、次長又は調整員の職務	0	0.0		0	0	0.0	課長補佐級
3級	課長又は主幹の職務	1	25.0	課長	1	1	25.0	課長級
4級	部長又は参与の職務	3	75.0	保健所長	1	3	75.0	部長級
				参与	2			
合計		4	100.0					

(注) 端数処理の関係上、構成比の合計が100%に満たない場合がある。

(5) 看護職給料表

職務の級	基準となる職務	合計		内訳		職制上の段階		
		(人)	(%)	職名	(人)	(人)	(%)	段階
1級	准看護師の職務	0	0.0		0	1	100.0	係員級
2級	助産師又は看護師の職務	1	100.0	看護師	1			
3級	主任職員の職務	0	0.0		0	0	0.0	主任級
4級	主査の職務	0	0.0		0	0	0.0	係長級
5級	担当次長、次長又は調整員の職務	0	0.0		0	0	0.0	課長補佐級
6級	課長補佐又は専門員の職務	0	0.0		0			
7級	課長若しくは主幹又は部長若しくは参与の職務	0	0.0		0	0	0.0	課長級又は部長級
合計		1	100.0					

(注) 端数処理の関係上、構成比の合計が100%に満たない場合がある。

(6) 特定任期付職員給料表

号給	標準的な職務	合計		内訳	
		(人)	(%)	職名	(人)
1	高度の専門的な知識経験を有する者がその知識経験を活用して業務に従事する場合	0	0.0		0
2	高度の専門的な知識経験を有する者がその知識経験を活用して困難な業務に従事する場合	0	0.0		0
3	高度の専門的な知識経験を有する者がその知識経験を活用して特に困難な業務に従事する場合	1	50.0	課長補佐	1
4	特に高度の専門的な知識経験を有する者がその知識経験を活用して特に困難な業務に従事する場合	1	50.0	課長	0
5	特に高度の専門的な知識経験を有する者がその知識経験を活用して特に困難な業務で重要なものに従事する場合	0	0.0		0
6	極めて高度の専門的な知識経験又は優れた識見を有する者がその知識経験等を活用して特に困難な業務で重要なものに従事する場合	0	0.0		0
7	極めて高度の専門的な知識経験又は優れた識見を有する者がその知識経験等を活用して特に困難な業務で特に重要なものに従事する場合	0	0.0		0
合計		2	100.0		

(注) 端数処理の関係上、構成比の合計が100%に満たない場合がある。